

## 論文内容要旨

報告番号	甲 先 第 <b>248</b> 号	氏 名	森 康成
学位論文題目	地震時の適切な避難行動を促すための防災啓発と教育手法に関する研究		
<p>内容要旨</p> <p>1995年1月17日にM7.3の兵庫県南部地震が発生し、淡路島と神戸を中心にして甚大な被害が発生した。就寝中に発生した地震で多くの人が倒壊家屋の下敷きになり命を落とした。2013年には再び淡路島で未明の就寝中にM6.3の地震が発生し、淡路島に甚大な被害をもたらした。西日本では次の南海トラフ地震が懸念され、その対策が議論されている。</p> <p>著者は地震時の適切な初動行動によりある程度は自分の身を守れるのではないかと、また、自分の身は自分で守らなければならないと考えている。次の南海トラフ地震・津波を考えるとその重要性は非常に高い。このような問題意識から、地震時の人々の行動を明らかにし、その上で、問題点を抽出し、防災教育に生かせる教材を開発する研究に取り組んだ。</p> <p>本論文では、前半部分で、1995年兵庫県南部地震、2013年淡路島地震、2014年伊予灘地震を取りあげ、海岸地区住民を対象にして地震についての意識と住民の初動行動についての課題を明らかにする。後半部分では、明らかになった問題点について、震災の語り継ぎ、防災教育の歴史的な経緯、学校の防災教育における防災マニュアルと教科の連携の調査から、避難行動を促す啓発や教育手法について考察し提案する。</p> <p>海岸地区の住民を対象にした地震時の初動行動、加えて、就寝時の地震時の初動行動についてはほとんど研究例はなく、また、就寝時の2つの地震時の行動比較は先行研究もなく、この研究の意義はあった。調査地域は、近い将来の南海トラフ地震が想定されており、また、高齢化していく地域での問題点、従来言われている、地震時には多くの人が立ちすくむというような動けない状態が発生していることも確認できた。夜間や早朝では、緊急地震速報の聴取やその対応、震度7を未体験の住民の大地震に対する備えの意識などに問題点が見られた。これらの問題を解決するためには、日ごろの訓練や地震に対する心構えの意識が必要である事を議論した。著者は、調査結果について聞き取りをした地域で参加型の展示や報告をし、地域への還元や防災意識の喚起を行ってきた。</p> <p>地震時の適切な避難行動を行うには、住む地域をよく知る人からの語り継ぎも重要な要素である。語り部の手法に関する研究は非常に少なく、著者の実験により、映像を使用すると避難行動に態度変容起こす可能性のあること、新しく語り部を開始する要素として、災害事例、災害の関連の事柄やそれをよく知る人、語り部をする場、語り部の話を聞く児童・生徒の存在が必要なことを確認し、語り部の手法について提案できた。</p> <p>学校教育の調査では、避難訓練などと教科教育の連携が不十分であり、この連携をうまくすることが出来れば、より効率的な防災教育や地震時の初動対応ができると考えた。防災関連の授業が少ないかほとんどない外国語英語と図画工作で教材開発を行った。地震時の揺れに対する机の下への</p>			

避難と英語学習を組み合わせた「英災学習」、地震時に散乱した家屋内からけがをせずに避難するための靴「逃とぐつ」の製作を考案した。これら 2 つについては、実験や実践をして、効果を確認し、その後、小学校などへ提案をしている。